



武江年表  
五

伊地知文庫  
文庫20  
383  
6





武江年表卷之六

伊地知氏書冊



明和七年庚寅 六月閏

三月十日より湯島天満宮開帳 ○十日より所蔵所入幡宮より東北野社  
 司不蔵菅神志草像本地親世寺開帳 ○淺草祇念寺より之三及明顯寺柳  
 洲堂聖徳太子三尊佛本開帳 ○四月朔日より麻布善福寺より之越後  
 高田井波園瑞泉寺親書上人宝物本詳せしむ ○同日より深川吉信寺  
 あり奥州合津大用密寺釈迦如来并帳 ○茅場町茶師如来開帳  
 ○深川淨土寺より身延山奥院祖師鬼子母神開帳 ○四月十二日より  
 深川大佛勧進所より二月堂親世寺并宝物開帳 ○永代寺より之徳念  
 所より井熾磨王本地梵経帳 ○五月より八月迄徳園大早  
 道玄禱ふ虫つ死  
 江太も虫飛出たり

武江年表卷之六



俗小虫をカチと云々... 六月下旬星月を... 六月下旬星月を...

○新布永坂光照寺... 六月十九日八月中旬...

○六月十九日八月中旬... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...

○日向院にて... 日向院にて...



しつり不忍池弁才天開帳 ○二月廿九日方々以富士田楓江死 若次と云を母の上よりあり甚念終心傳ふ

○四月朔日より浅草本法寺にて房明本条小松系鏡恩と祖師開帳

○同日より不忍弁才天内にて徳倉極末寺釈迦如来開帳 ○本所入之橋

自性院にて信乃川東南照寺弥勒如来開帳 ○四月朔日より浅草寺内より

上総望陀那大久保村大日如来徳野権現開帳 ○戸傍町弁量

院にて奥羽景折弁能寺弥勒如来弁能上人像開帳 ○浅草寺町深空寺

文殊并開帳 ○四月江戸雲路 ○四月八日物産家後友梨妻平 七千八百元 徳太 伴格陸虎

と早の著述の去多し。芝青松の華原。又義方 四月廿三日 曉寅刻 吉系 揚登町

出火廊中焼亡 以時も九月助稻荷の社勝り今戸格場邊 ○五月二日地震 ○五月十七日

光物飛ぶ ○五月より三股新地築之始 安永元年の 件又記せり ○六月二日大地震

○五夜浪通用止 ○東埔塞此の小さ成唐茄子と号しとをわり出火

○薬研堀といふ米次町二丁目三丁目の地先小丘一入堀あり今年

六月より十月迄は埋立其町極と成業研堀埋立地と号し ○七月朔日より

浅草境内にて徳倉永谷貞昌院天満宮開帳 ○七月朔日より回向院にて

大和常麻延生寺弥勒如来開帳廿五菩薩来迎會修りあり ○八月大風人

家多く倒と出松り切切と永代橋一高り大橋あり之止又一艘佃島と

石川島の石吹上人跡を以て出火 ○九月神田町神奈礼延引安永八年より

出火 ○秋永代寺小築山泉水せうりる時心せうりるを以て近辺度々出火

乃一中小河岸小築並る秋の葉より出火して本所小梅追焼け其巖寺

本堂も焼より是等壁山の形を写し女人を請めたる崇あり 以説 理小

あまの山を造るは永代寺の庭中あり ○神田佐柄本町酒店山川十右衛門

近辺の町屋のりの初る不火あり 以説 理小 ○神田佐柄本町酒店山川十右衛門

観世寺像二十三軀を造りしめ浅草下谷の寺院二十三所安置して順礼



所と

此年間に記事

△儒家 宇佐美惠助備水 杉崎才茂觀海 井上文平金 井上源茂東 井上仲

岡井郡太史嶽 △詩文 藤弥八雀 細井甚三郎平 宮瀬三石田 須知文平

葛城山人 千葉茂右衛門芸 三浦左衛門瓶 大内忠右史熊 △書家 三井孫玄清

和親 澤田文二郎東 松下君嶽鳥 屋代左衛門師 伊友善茂益通 靄陵山人

小河保壽 細井九臯 △和歌 加茂吉洲 藤原守成 荷田西風 蒼生女

稻生魚彦 △物産 田村元権 平賀旭溪 後藤梨夷 △画家 狩野策川院

鈴木鄰松 吉田紫香 佐野嵩之 三浦花信 諸葛監文務 叔といふ初を上手門人 劉安生也

△俳諧 蓼太存義 買明治山 田社宝馬 露十 △浮世繪師 橋川春章門人 多

一筆 舟文潤 磯田湖菰 柳文朝 小松菴百龜 木乃

○三井親和が篆書乃れより親和深とて篆字のむをれり形を傳物とて

る事乃れ又婦女の衣類表へ畫物ふして裏ふ極程を付ることをやる ○細舟の

極をえりやる 武家より細舟刀を用い由 ○土平といふ飽賣をやる谷中坐森稲菰

境内の茶室鍵菴のおせん浅草奥山銀杏木の下楊枝店柳菴のおあぢ

美女の吹雪あり 喜信の舞馬 ○曲亭云明和二年の以庵山の彩色摺ふありひ

て板木師金六といふりの板摺某ふくくひ板木一見高を付る事を工丈一始く

四六通の彩色摺を製家へ出せり程あり和くあり松出以事とありぬと云く

蜀山翁云此院非之見高を付る彩色摺へ近享元年 ○明和二年の以大坂人形を吉田

江を屋右衛門工丈と始とすといふり

文三郎同文吾松あり一以彼ら風を召ありて羽抄の丈再此れを好るが

福あり程く成りり ○琴曲生田檢校乃る ○富士田根印萩印露友

木が長嶺新内弁降瑞瑞乃る ○二挺鼓をやる ○朝鮮の弘慶子といふ某



賣市街と何る

栴色筒袖衣敷津の子差の  
老妻りて幾うが

○大晦日の夜扇賣の声か

中々くは此時代より次第止まりたり ○曳尾菴云明和安永の以氣除猫

の繪かんとて市中と安永の常州の者もて名を雲友といふ 又蜀人の話一言  
小天西寛政の以

白仙といふもの年々みちるた坊主は出羽の秋田に猫の宮あり秋の夕やけに猫と虎とを

画きて社に一枚々納せるといふ自ら猫うたと稱し猫と虎とを画く筆を拵て都下を

うれあるき猫ちかるといひて呼入るに画しむれば僅の價を乞ふと画くその猫の氣を

避しといふ云々とありりれり先ある 未詳

平賀旭漢紅毛の工レキテルを工吏一日奉りて製し始む

安永元年壬辰 十月廿五日改元

二月初午儀より西宮稻荷社裏を後を 午後  
休む ○二月廿八日江戸天火坤より辰

一飛ぶ ○二月廿九日乾より西南の風烈しく土烟火を覆ひ日光勝然より午の刻

同業行人坂大田吉 天  
右より出火して永孝町通り白金左町麻布辺一系 若福  
の本堂

開山堂 三田新網町辺裡宛飯倉市云清町ありれ靈南坂一筋ハ西久保橋回

處が冥虎所門日比谷内つる場先所門橋田内つ和田倉内つ常盤橋所門

神田橋所門木焼七右道筋内つ内諸侯藩邸灰塔と成る日中橋南ハ通

三田町目西側元四日市町茶町西河原邊より南傳る町中橋を限り上橋

町連小ハ本町石町辺東西林田町武家方一系小川町入口駿河臺

昌平橋筋建揚所門外林田町社聖堂湯橋天神社内不を急

一系上野仁王門山王社下寺不涉車坂下谷辺廣小路所徒町三味線橋坂

中入谷令松篋端小塚原吉原町子住大橋向掃部宿淺草筋ハ下谷 本堂  
鈔

廣徳寺坊通新堀阿比川町寺越邊本所寺所堂淺草寺 本堂  
鈔

院并寺中馬道田町新寺越橋場小町又同日寺六時奉り丸山田町

より出火して森川宿迄分約込白山傾城が處入口迄より多分繩手土物店

千太本入口根津谷中感徳寺草坂根津谷小町 翌晦日未刻  
以示よと止る 又翌晦日已

武江年表卷之六



刻小風ふらり或東風又成常盤橋外の火大傳る町辺馬喰町二丁目連濱町辺塚町葺屋町為産の芝居棟芝居四座小細町大坂町田所町極波町住吉町辺伊勢町強阿町室町迄日本橋中橋系橋ふらり未刻双方の火烈り坊町大雨降風烈るは火多長六里幅一里大小名藩邸寺院神社町屋の軒窓〜焼死怪家入更救を知らず

○吉原町飯室今戸橋場山の宿為本條川八幡寺佃丁二出る芳町の衝籠郎由仲丁の飯室へ出る○大火後仍大坂大田町再建立しその故ある人八百羅漢の石像を造立し雲中庵葺本橋山町は住らうは火多し逃れく御川右方極要津中川の菴より「排橋を志して青丸柳の多」といふをある人舞あきう一人はせをひて百鞘をみて夜を明せしとぞ

○三月又日より不恩条乙内まで系如堂徳寺稲荷明神開帳

○四月十日より牛の所前王子権現開帳○四月十九日芳方天火西より東北へ飛ぶ○四月八日より小日向大日坂妙皇院大日如來開帳○魚籠屋記世吉開帳○四月より五月迄諸必疫癘流行○四月日谷内義新宿跡舎

再興免あり甲坊道中人馬能立の示とありて禁置せり○大川中洲妙地築立成徳以町屋の安永四年小至々全く成まり

川岸九丁余坪敷九千七百七坪余葺屋九十二軒あり屋内四季庵と云ハ小東の隅の料理屋より殊々大度〜とそ湯屋ハ三軒あり屋敷の家敷初〜は安永四年より天明八年迄十三年の間に中洲の屋敷は約六百坪あり〜寛政五元のこと〜朱樂菱江の錦の大板屋焼といふ屋敷中洲の屋敷を〜記せり

○七月六日画人佐脇嵩之卒

○八月朔日二日大風自家産を吹潰れ為妻於焼の小産吹倒りり多々〜

○八月五日儒師村士淡舟卒

○八月十七日大風自再度小産を覆す本不深川出水床

○九月式朱張通用始る○十一月朔日敷九町以上野所本坊失火

○比冬物麿といふ人日暮里舟艇者松子碑を建小海入江貞文を撰也



○再按増補江戸砂子梓乃 沾涼が男恒足軒門人 冬涉按訂以

安永二年癸巳 二月閏

二月十五日儒師深見有隣卒 林彰善傳又冬更史玄岱の三男也 上野護国院に葬以 ○三月廿一日平島

長命寺弁天開帳 ○二月より田向院境内一言親善開帳 ○同善橋慶申堂

青面金剛開帳 ○三月十日上野凌雲院失火 ○四月より洲本弁天開帳

○同月より善先稻荷神開帳 ○四月午の日祭地小田原町浪除稻荷祭

町々出練物亦必以生括体む ○三月末より疫病仍是人多々死を 江戸中

三月より五月まで凡十九万人 所救とて朝鮮人參せり ○四月よりお忍びの塔

上の宮弁天開帳江戸より糸清多し ○五月醫學館再建法医師より年々

寄附銀乃 ○五月十九日儒師坪井青城卒 名教求 浅草正覺寺に葬以 ○葛西东御

寺日限親世善開帳 在りて半途に 傳る ○七月朔日より湯島社地にて攝州

四天王寺聖徳太子開帳 五月廿六日の夜家の時 建の旗多く如く ○冬嚴寒川々の氷厚く通船自由

あふるゆゑて然物の價甚貴りりこれ又とて正月門飾の松竹高ふるや

名ふし何ふあふ川も氷因て通船絶一日も有し由後足草不りり

○十二月朔日神田神社仮殿にて糸礼の式執り 當年糸礼の年也有し其年大 雁り本社内運営いまだ成らば

産子の町々相り物も若ふ何をみる夜今日仮殿にて是式の如くあり 安永の始の以綿の更ぞ 作りたる所の如く

は後安永六年速返殿まで執り以月八亥年九月奉斎あり 墓所一覽に画人宋紫石の終り系本那中使奉るに葬 由記せり此の最島扁額縮本に安永七年戊戌五月

の蕎麦を食して死するといふ 一叙ありてその更賣れに也 ○同 三年甲午

正月廿日狩野洞庭舟信卒 ○二月八日より川口善光寺淨院如來開帳

○三月廿日桂町より出火大風吹て救所難焼すと云 ○三月十日中納振

千年忌 ○三月十八日建部涼袋卒 五十六才牛島弘福寺に葬以 画并俳諧を長く以寒葉齋と号以



○同日より魚藍親世青開帳○四月朔日より六月廿一日迄大師河原平間  
 寺弘法大師中教編荷田向院にて開帳○四月四日より六月八日迄本所  
 表町本久寺祖師開帳○四月八日より五月十八日迄本下川某師如來開帳  
 ○永代寺内丈六親世青腰籠佛開帳○四月十八日より六月八日迄淺草寺  
 親世青開帳○西門外河對面所にて信助植料郡白香山康樂寺園光大師  
 御影親世上人本像開帳○二本板廣岳院にて仙臺住生寺寶牛像  
 度田光大師開帳○六所延陀末本親世青開帳西ヶ原 昌林○三月廿四日  
 在量寺親世青開帳○四月十八日より六月八日迄淺草寺内日音院  
 兩室童子松壽院おとく弁才天獲籠像開帳○淺草池の妙寺も弁  
 才天開帳○五月十六日より龜戸天満宮開帳○六月六日大雷廿七ヶ所小  
 落る○六月廿二日大風雨家屋を損一樹木を倒す

○小石川傳通院山内福聚院大黒天夏の以より江戸中一構中を結んで  
 甲子の系譜今年より始る○七月朔日より獲園寺本寺如來編親世青  
 開帳○同日より小石川大塚大慈寺親世青開帳○七月十五日古筆了延卒  
七十 ○八月十五日市谷八幡宮系礼神樂を演一牛練物未出○八月十日  
一才 裕元祖齋賀新内死一才 ○九月朔日より市谷八幡宮内茶の末編荷田開  
 帳○九月醫學敏謙堂成就也○九月廿日土山聖天宮系礼神樂を演  
 一産子の町より出練物を出は後休む○九月廿日小石川白山権現  
 系礼神樂を演一産子町より出練物を出は○九月深川清鏡座止  
 ○大川橋始り掛る俗ふ吾妻 橋といふ 十月十七日渡り始り○十月廿二日儒師鶴益一卒左勝  
伊子長徳 ○画人鳥山石蕪豊房智山彦といふ繪本二巻をいふはフキボカ  
 シの彩色摺を工せしは本を始といふは安房貞翁の誌之石蕪の周信の門人 あり板刻の画本也



○又此時代橋の紙江といふ繪師ありて、摺込の粉色を工  
夫し職人部類といふ繪本を何れも、其外倣游の点式など製して行ま  
し、がやて廢れし。○投扇の裁行も、綫是を弄り

安永四年乙未

十一月間

三月十七日より回向院にて京清水山養院景清守本尊千手觀世音毘沙門天

勝軍地藏尊開帳○月廿九日分濃谷長谷寺にて京音羽山清水寺

興院千手觀世音毘沙門天地藏尊開帳○大井來福寺櫻樹を栽種し

○四月朔日より祢田上水添大盛寺井頭赤才天開帳○津久戸明林

八幡宮開帳○四月芝切通一時の禱再興○龜戸聖廟小樓門

建屋上小○大川中洲築立地一家居連續町名を三股富永町と号

川辺小葺篋圓ハの茶店せうけ、夏月納涼殊々繁々、絃琴畫

夜不喧やふせん

六如菴詩鈔 中津泛舟

繁華休說、湧金門行樂此中難、具論烟暖四時花、世界月清萬頃  
水、乾坤壘楊岸、岸樓臺出遊舫、人人歌笑宜、輪却枕列、緣底事、恨  
無、蘓白關詞源

中津納涼同伊藤士善

日落江天闌暑收、趁涼輕舸向中洲、燈棚夾岸花相映、蟬竦臥波  
橋欲浮、鳳管數聲風、扇扇星河一帶水、悠悠銀罌倒、畫人難、醉白  
紵、携扇滿秋

中津漫興

十里清湖鏡裡、天擎華惱客、動留連、鴛鴦沙外芙蓉、雨楊柳、橋頭  
翡翠烟、祇見黃金、笑誰知、白髮暗催年、笙歌眼底、鎮長滿、自  
是來舟非去船

○四月より目黒明王院にて豫念抄本寺觀世音同岩殿寺觀世音同  
宝戒寺觀世音、豫念抄比叢の内一番地藏并開帳○七月より回向院  
より伊豆三島七田寺富士山本地阿彌陀如来開帳○七月より回向院  
より相模箱根塔峯阿彌陀寺深誓上人本地法圓光佛開帳



○七月より市谷柳町より徳院親重なる閑帳 ○八月十三日より晦日まで  
 深川八幡宮閑帳 ○月廿二日より護國寺山内より後父二十比苗親世音  
 不務閑帳 ○八月茅場町葉沙境内より及菟野法界より朝日如來閑帳 ○九月  
 朔日より音羽町九丁目田中八幡宮閑帳 ○月日より廿日迄坂田町世徳稲  
 若天満宮閑帳 ○九月十九日牛込赤城明神閑帳 ○投壺の技有り ○未  
 研尋一之法を傳ふ投壺指揮投壺矢勢圖解不辨有り ○紀伊玉置文丸米つ山が実子  
 文右衛門築地坂田町又住一終る善一なるが能治せ好む龜山と号し後其孫  
 繁一より明西といふ今年六十存才ふく終る ○十二月廿二日儒師  
 杉崎親海卒 名雅時孫才孫 麻布赤いお草 ○薩那よりあり一齋齋 ヤマ アラシといふ歎津田氏  
 屋町田村元雄の家より左一が後流草と境内より見世物と以て然の大サを脊  
 小老に骨教百本あり懸る時ハ此骨運まろく忍ろ一き善せあり

安永五年丙申

正月五日儒師村士一秋卒 名宗章号出水称杉若 四十才約迄大田古上葬 ○正月廿八日より柳島法  
 性寺妙見宮閑帳 ○二月風邪流行 ○三月末より秋の始を麻疹流行  
 人多く死す ○三月廿二日物産家田村元雄卒 名元壘法草 名物古小葬 ○四月廿八日詩  
 人大内熊耳卒 八十才名承裕称忠を又下谷廣植古小 葬以男七葉室といふ ○五月六日より八月八日迄回  
 向院より伊勢白子親重より子安親世なる閑帳 ○五月朔日より矢口新  
 田町津本地十一面親世なる閑帳 ○月日より永代より六々羽田兼才天  
 閑帳 ○七月朔日より永代より飛来八幡宮閑帳 ○七月廿九日秋生通濟卒 七十比六 号金谷  
 祖孫の男あり ○八月九日儒師宇佐美瀧水卒 名惠字子迪称惠助四谷 南丁戒行古小葬 ○柳橋若井  
 屋と云船宿の妻一産小三女を生ん 名を梅松さくといふまづい様の編語ありといふも ちういふ小作りて街政よくといふるともあり  
 ○品川の辺より石地藏經を讀む声聞ゆるとて皆人喧ふり一が地蔵号の



あむわらひ あむわらひ 為覆を放しつゝ子後の方<sup>ちち</sup>蜂の巢ありて多くの蜂の声<sup>うきき</sup>續極の採<sup>せ</sup>ま  
えし<sup>ふ</sup> ふ 出 ふ ○九月十三日東叡山瑞璃殿并法堂<sup>てん</sup>修復新始

○十月廿七日書家伊波益道<sup>えきどう</sup>卒 名子仍 林昌茂 ○十二月十日夜二更<sup>ふたご</sup>のころ

新座<sup>あひ</sup>那<sup>な</sup>東<sup>とう</sup>明<sup>めい</sup>と吹<sup>ふ</sup>上<sup>じやう</sup>親<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>寺<sup>じ</sup>本<sup>ほん</sup>堂<sup>どう</sup>焼<sup>や</sup>亡 本堂火中不埋れ ○十二月廿三日儒師

伊<sup>い</sup>東<sup>とう</sup>渤海<sup>ぼくかい</sup>卒 名見 浅芝 万庵も亦以

安永六年丁酉

正月廿一日曉<sup>あけ</sup>青<sup>せい</sup>山<sup>さん</sup>沖<sup>ちゆう</sup>子<sup>し</sup>大<sup>だい</sup>工<sup>こう</sup>町<sup>ちやう</sup>焼<sup>や</sup> ○浅<sup>せん</sup>芝<sup>し</sup>報<sup>ほう</sup>恩<sup>ん</sup>寺<sup>じ</sup>親<sup>しん</sup>書<sup>しよ</sup>上<sup>じやう</sup>人<sup>にん</sup>持<sup>ぢ</sup>物<sup>ぶつ</sup>の付<sup>つ</sup>宝<sup>ぼう</sup>と  
洋<sup>やう</sup>ち<sup>ち</sup>む ○二月廿日とり六月朔日すく浅<sup>せん</sup>芝<sup>し</sup>寺<sup>じ</sup>親<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>寺<sup>じ</sup>并<sup>へい</sup>境<sup>けい</sup>内<sup>ない</sup>林<sup>りん</sup>仏<sup>ぶつ</sup>熱<sup>ねつ</sup>閑<sup>かん</sup>  
焼<sup>や</sup>あり閑<sup>かん</sup>基<sup>き</sup>より千<sup>せん</sup>百<sup>ひやく</sup>五<sup>ご</sup>十<sup>じゅう</sup>年<sup>ねん</sup>ふ及<sup>およ</sup>ふと云 惟人ち町百菴の菩提ふり浅芝妙善院の  
境内ふ山岳明阿先生位ありて皆以焼石

閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup>ありと拜<sup>らい</sup>以<sup>い</sup>おせ  
中<sup>ちゆう</sup>谷<sup>こく</sup>と云今<sup>いま</sup>中<sup>ちゆう</sup>田<sup>でん</sup>と云

石<sup>いし</sup>枕<sup>まくら</sup>あり兒<sup>こ</sup>思<sup>おも</sup>ひのうね<sup>うね</sup>みと今<sup>いま</sup>あつ田<sup>でん</sup>の里<sup>さと</sup>と云<sup>いふ</sup>き<sup>き</sup> 百<sup>ひやく</sup>菴<sup>あん</sup>

廿<sup>にじゅう</sup>日<sup>にち</sup>浅<sup>せん</sup>の<sup>の</sup>中<sup>ちゆう</sup>の<sup>の</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>を<sup>を</sup>枕<sup>まくら</sup>かり<sup>かり</sup>に<sup>に</sup>お<sup>お</sup>き<sup>き</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>里<sup>さと</sup> 明<sup>めい</sup>阿<sup>あ</sup>

○三月廿五日より湯<sup>ゆ</sup>宮<sup>みや</sup>本<sup>ほん</sup>社<sup>しゃ</sup>建<sup>けん</sup>立<sup>りつ</sup>成<sup>せい</sup>祐<sup>ゆう</sup>子<sup>し</sup>付<sup>つ</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○三月同日白<sup>はく</sup>杉<sup>すぎ</sup>長<sup>ちやう</sup>

谷<sup>こ</sup>寺<sup>じ</sup>境<sup>けい</sup>内<sup>ない</sup>親<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>寺<sup>じ</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○浅<sup>せん</sup>芝<sup>し</sup>唯<sup>い</sup>念<sup>ねん</sup>寺<sup>じ</sup>林<sup>りん</sup>念<sup>ねん</sup>寺<sup>じ</sup>溜<sup>りゅう</sup>池<sup>ち</sup>澄<sup>てい</sup>泉<sup>せん</sup>寺<sup>じ</sup>と七七<sup>しちしち</sup>日<sup>にち</sup>

下<sup>げ</sup>野<sup>の</sup>高<sup>こう</sup>田<sup>でん</sup>天<sup>てん</sup>辨<sup>べん</sup>一<sup>いつ</sup>光<sup>こう</sup>之<sup>の</sup>佛<sup>ぶつ</sup>誓<sup>せい</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○四月朔日より回<sup>かい</sup>向<sup>じやう</sup>院<sup>いん</sup>岡<sup>おか</sup>山<sup>さん</sup>護<sup>ご</sup>念<sup>ねん</sup>仏<sup>ぶつ</sup>傳<sup>でん</sup>中<sup>ちゆう</sup>

千<sup>せん</sup>辨<sup>べん</sup>佛<sup>ぶつ</sup> 他 阿<sup>あ</sup>鉢<sup>はつ</sup>院<sup>いん</sup>如<sup>にょ</sup>來<sup>らい</sup>境<sup>けい</sup>内<sup>ない</sup>茶<sup>ちや</sup>茶<sup>ちや</sup>亦<sup>また</sup>才<sup>さい</sup>天<sup>てん</sup>一<sup>いつ</sup>言<sup>ごん</sup>親<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>寺<sup>じ</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○同日より青<sup>せい</sup>山<sup>さん</sup>

善<sup>ぜん</sup>光<sup>こう</sup>寺<sup>じ</sup>一<sup>いつ</sup>光<sup>こう</sup>三<sup>さん</sup>号<sup>ごう</sup>院<sup>いん</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○浅<sup>せん</sup>谷<sup>こ</sup>長<sup>ちやう</sup>谷<sup>こ</sup>寺<sup>じ</sup>二<sup>に</sup>丈<sup>じやう</sup>六<sup>ろく</sup>尺<sup>せき</sup>親<sup>しん</sup>世<sup>せ</sup>寺<sup>じ</sup>獲<sup>とく</sup>藤<sup>とう</sup>の<sup>の</sup>像<sup>ざう</sup>を

外<sup>がい</sup>古<sup>こ</sup>佛<sup>ぶつ</sup>靈<sup>りやう</sup>宝<sup>ぼう</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○四月より下<sup>げ</sup>谷<sup>こ</sup>寺<sup>じ</sup>町<sup>ちやう</sup>蓮<sup>れん</sup>城<sup>じやう</sup>寺<sup>じ</sup>祖<sup>そ</sup>師<sup>し</sup> 日親上人 閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○搦<sup>な</sup>場<sup>ばう</sup>

不<sup>ふ</sup>動<sup>どう</sup>院<sup>いん</sup>不<sup>ふ</sup>動<sup>どう</sup>寺<sup>じ</sup> 他 閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○四月八日より龜<sup>かめ</sup>戸<sup>こ</sup>社<sup>しゃ</sup>内<sup>ない</sup>花<sup>はな</sup>園<sup>えん</sup>明<sup>めい</sup>神<sup>しん</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○中<sup>ちゆう</sup>野<sup>の</sup>法<sup>ぽう</sup>

仙<sup>せん</sup>寺<sup>じ</sup>不<sup>ふ</sup>動<sup>どう</sup>寺<sup>じ</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○芝<sup>し</sup>金<sup>こん</sup>炊<sup>すい</sup>正<sup>せい</sup>傳<sup>でん</sup>寺<sup>じ</sup>あて牛<sup>うし</sup>込<sup>こ</sup>寺<sup>じ</sup>町<sup>ちやう</sup>久<sup>く</sup>成<sup>せい</sup>寺<sup>じ</sup>和<sup>わ</sup>寺<sup>じ</sup>祖<sup>そ</sup>師<sup>し</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup>

○下<sup>げ</sup>谷<sup>こ</sup>五<sup>ご</sup>条<sup>じやう</sup>天<sup>てん</sup>神<sup>しん</sup>天<sup>てん</sup>満<sup>まん</sup>宮<sup>みや</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○龜<sup>かめ</sup>宿<sup>しゆく</sup>山<sup>さん</sup>福<sup>ふく</sup>寺<sup>じ</sup>あて出<sup>で</sup>羽<sup>う</sup>湯<sup>とう</sup>殿<sup>でん</sup>山<sup>さん</sup>黄<sup>わう</sup>金<sup>こん</sup>堂<sup>どう</sup>玄<sup>げん</sup>良<sup>りやう</sup>

坊<sup>ぼう</sup>依<sup>い</sup>久<sup>く</sup>間<sup>ま</sup>初<sup>はつ</sup>日<sup>にち</sup>如<sup>にょ</sup>來<sup>らい</sup>閑<sup>かん</sup>帳<sup>ちやう</sup> ○籠<sup>かご</sup>町<sup>ちやう</sup>平<sup>へい</sup>河<sup>か</sup>天<sup>てん</sup>社<sup>しゃ</sup>内<sup>ない</sup>之<sup>の</sup>小<sup>せう</sup>淨<sup>じやう</sup>淡<sup>たん</sup>島<sup>しま</sup>初<sup>はつ</sup>社<sup>しゃ</sup>虚<sup>こ</sup>空<sup>くう</sup>院<sup>いん</sup>



弁屏帳 ○六月より本丸山身若寺祖師開帳 ○六月十日儒師痛垣長章卒 号曰  
林若右衛門白山 夏より伊豆大島焼始り南海へ火燭出る不川沖を夜く火光天く  
妙法寺小善八

映するせりる ○八月十五日日向院より印及粟津義仲と本若義仲於長守本  
あさひ

寺於日休院如來芭蕉翁像開帳 ○八月廿五日書家高山水暎卒 名尚賢林若助  
浅草松原若菜

○北秋魚鱗ありねが小田東の海中へ大魚来る是又日又十有横八九方脊中又蛇  
きんぎょや

の類付て名をせノウガサメといひりある大船をも覆へりり了る以漁人  
くろが

為れく海へ出るあり ○十月日本不動寺内を武島多摩郡谷保天  
あまの

社開帳 別當 ○十月甲辰身延山七面宮より出火系諸の者怪家人をく  
安樂寺

江戸よりも怒りて迎あむる者多く九死一生の祥とて御府せしむりて  
きりりや

安永七年戊戌 七月間

二月朔日より淺草本法寺より佐渡五塚系根本寺祖師開帳 ○二月十二日

俄又大風起り本石町より出火靈巖高深川追延焼 ○小傳子町子代因

縮為新靈宝救多由と拜せむ ○淺野家の義士垣初安去傍が後

家 縁組とのひー計もてあせさる月 羅髪とて妙海と号し飛戸村の庵室に居  
ま切後を十六才の時あり

うりうり老後泉岳寺の門弟小住して義士の善境を吊ひ居りうり今

年二月廿五九十九才小く終れり ○三月三日儒師南宮太湫卒 名岳  
牛島弘高

○三月廿五より櫻町平川天満宮開帳 ○鳥森稻荷の社春日  
牛島弘高

の社 別當 開帳 ○三月上野清水堂觀世若本堂造立あり開帳  
映也院

○三田春日の社開帳 ○お横身初の日較昔へ曉天八日成り今年三月十八

日より深川八幡宮境内においしく身初ありより十日と成り由我衣

見たり ○四月朔日より牛込田福寺より系本満寺祖師開帳

○同日より淺園寺より甲辰大聖院不動尊 新屋三井傳 開帳  
武田信玄傳



○六月朔日、河越前八幡宮にて駿馬富士裾野等我八幡宮を我見尊の  
像荒人神 玉波明神虎の舌 開帳○同日より河越前中央寺大日如来開帳

○同日より同七月十七日追田白院より信明善光寺延光寺開帳以時開帳

一、河越前寺より追田白院の先小地町よりつれて寺に念佛を唱へて奉詣りしもの多  
し平賀橋渡島亭馬場分所よりて又寺をへり少き馬場の脊ふら屋の番号をゆりし  
せりのみゆりて利をゆりしものみ又越前津三平古平といふ所の細工をゆりしもの  
号一河越前寺をえきて分所をゆりしものみ又ゆりしもの鬼屋といふ所のゆりしもの  
名物多し ○六月朔日より河越前南村大佛勧進所出世大慈天開帳

○六月十六日俳人小栗百万平西本村中 ○六月廿二日より多田某師内小

武江十茶村某光寺正親世光智法印像開扉○寺神如来よりあく  
常陸國麻島郡子生村宮寺森又天開帳○七月朔日より芝堂宮

社地より千住勝専寺誓大明神開帳○牛込七軒町多門院二身毘沙

門天開帳○三田寺町慈眼寺系列正親世光中乃娘蓮宗より織りかへり 開帳

○七月朔日より湯島社地より武州埼玉郡野島地蔵寺開帳津山より

○七月四日書家山本榮海名智光林元光 ○七月八日小割下水花巖本不法思より華以

外某師如來開帳○七月十六日より浅草清水寺千手觀世音奉堂建立完成

終身付開扉○七月儀より中務院妙見宮中堂建立入佛外付開扉

○七月廿八日より浅草寺中智光院より信勤善光寺越村住生より前堂ころや

感得延院如來聖徳太子 前堂新親子地蔵寺開帳○下落合村某王

院釈迦如来開帳○八月廿五日龜戸天満宮祭禮外列古例の如く又

産子町より延光寺出で延光寺大方あり中後

○七月廿八日儒師鹿島探春卒名号房号東郊外

安永八年己亥

正月十四日夜青山慈野権現別當淨性院自火○三月板津持双境内



あろく山旅所は本地親世寺開帳 ○川崎平間寺厄除弘法大師奉  
堂修復成就小舟開帳 ○

武江山重と云宮西の森小舟の池あり池中は石投げ等  
と号し又曰是未の老嫗の立像あり兒童を授けり  
小舟返入といひ傳へり一年六尺小舟も埋も石像も土中不埋れ四十年未初る人あり  
今年のも下縁五八日布田の百姓半山志大弟とのありの江戸小舟より以祈を借りて酒樓  
を營む池を改め三条小舟を架し三橋亭と号し又其藤の女小舟機之織り一かて客  
小舟をけりといふこの時の石像を掘り出ると強く首をたくりしを山上小舟移して今在  
り大集衆の傍あり ○四月朔日二日大寒一日大雹降 ○四月八日より

浅草奉法寺より新曾妙顯寺祖師釈迦如來開帳 ○月日より回向院  
より伊勢朝熊岳金剛徳寺虚空菩薩菩薩開帳 ○押上最教寺蒙  
古退治の旗曼荼羅を拜せしむ ○下谷徳大寺摩利支天開帳

○四月八日より浅草権寺 二見 結子熊野本地延徳如來 開山親智國師  
襟掛奉る 開帳  
○四月より七月迄百日のちね明江の橋奉宮岩屋無才天開帳 江戶寺末清造  
西末寺 開帳  
○同是月勅書内之信及水内郡石堂村萱堂寂照房作地蔵井 見末寺 開帳

○芝岩山内より浅草山虚空菩薩并岳中後鬼林堂地蔵井開帳 別當延命寺

○五月十六日より廿九日迄船形若勅進所より南於東本二月堂親世寺并長崎  
○六月八日より茅協町葉師内より武洲下新座村東明寺吹上親世寺開帳

○湯島元祚社地より多摩郡谷古田領新里徳性寺葉師如來不動尊の并  
帳 ○八月より深川八幡宮本地愛深明王開帳 ○小石川毎量院小野

の小町の墓とを五和州より移しし由今今年小町の九百忌子當り八月八日  
法了修り 小町の修り三月  
某の日ありといふ ○八月廿日大風雨洪水和泉橋落目白下水

道徳極の尊世宮程 小日向水乃下辺  
住末水寺足程あり ○護国度品川の前邸 瑞珠寺  
瑞珠寺の  
筆と名て植ふる諸人これを珍賞す 世小蓮小舟  
筆と名て ○九月二日能人梅都菴五連平

七年云小石川  
一より中葉あり ○九月より十二月迄小網町より甚左衛門町へ流るる河を  
壊ちし水の地を埋むる ○九月十五日平河前多礼社を後一孝子



町より出た物や山々がその後中絶也○去年暑より伴豆大  
為焼出夜毎西南晴勃して江戸近由暑流れり○十月朔日夜より

二日近灰雪の如く降る大隅國様為焼より一が灰江戸近由焼

いふ○十月廿三日仇人並家左廉卒 古千と上山下 啓運ち小葬人 ○葛西柴又村歌謡

九世目 今年堂宇を修理せし本堂の棟上より今の帝釈天の板本

致の所 今年堂宇を修理せし本堂の棟上より今の帝釈天の板本

○今年 是日 六月 書家鳥石葛原系初小於て卒 八十文字居岳号白雲岬 廣傳の門人なり

○十月十八日平賀旭漢卒 名因倫 林保内号風来山人 枳城総泉ち小葬 一と小安永九子年二月と由云

安永九年庚子

正月八日書家後山散兼卒 名秀 盤後山流の祖人 下谷長福ち小葬 ○二月十五日書家山本昌

信幸 林菊作 三回 孫ち小葬 ○三月九日基井千七十年供養六阿弥院如來小葬

回向○二月朔日より湯島社地より上野世良田感徳山熱持ち十一面

親世吉岡様○麻布若福寺冠儀聖徳太子岡様親書上人孝八字名

号せ詳せむ○千筋各八幡宮祐功皇后喜日明神岡様○三月朔日

市谷柳町先徳院子親世吉岡様○同日より池の妙寺ち祖師宗様

○三月十五日より青山善光寺ち攝津難波堀江一光寺佛岡様 和光寺

○三月十六日永代寺ち葛飾郡吉川延命寺地蔵岡様○四月朔日より

回向院より目黒祐毛河津院如來祐天大佛正念新岡様○四月朔日浅

草西福寺極量書仏 徳什物 親世寺 岡様○四月朔日より極楽水光寺ち元木某師

岡様○四月十五日より飛有村祥雲寺聖親世吉井深川寺町為慈ち小

岡様○目白不動寺岡様○浅草天五橋西の橋始り撰る○四月十六日より

羅漢寺三市堂建立八月の以成就 狭又坂東 西国の字 百親世吉安宅供養あり 及修持法 あり



○四月房州南浦異國船漂着南条船長廿八人等とりふ

○五月高田室家より石を積て富士山を築今月成終す ○或書より六月

○六月三日大雷雨

○六月廿四日儒師松宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光深院

○六月廿四日儒師松宮親山卒 華次志村吳林と号す

○六月廿四日儒師松宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光深院

○六月廿四日儒師松宮親山卒 華次志村吳林と号す

○六月廿四日儒師松宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光深院

○六月廿四日儒師松宮親山卒 華次志村吳林と号す

○六月廿四日儒師松宮親山卒 名後仍稱主吟大塚光深院

此年間に事

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成

○武藏志料字本成 武蔵志料字本成 武蔵志料字本成



三邦新迎嶽雲右衛門太右衛門 安永の頃より三津川永代の  
あて勧進商カ島移あり ○狂哥師 平枝東也

蜀山人多柄岡持唐衣襦洲 ○軍談師馬谷落一祐石井魯石右

○浮世繪師多居清長 新を柄珍木東信の以より以骨小巧お成  
しを信長工更より殊小英業あ成り 吉丸山堂更成

志川美町 倉橋  
嘉平 哥川豊春 一竜  
母 あり ○能人松露菴菴多醉四時遊觀録

といふ面柄をあらはに江戸花暦は小始り ○浅草寺境内石地蔵

因果地蔵 流行る後奥山三途川焼像祈願の者多し ○坐先稲荷境内茶

店の婆々油揚を揚ぐおいてと噂の噂出で合ふ皆人見を見す ○婦女の

髪さし始り ○和入温石始り ○裸人形腰折れといふりの造り始む

再按る  
小石川  
文政四  
年十月  
格れり  
小石川  
慈照院  
小藤茂

○小石川信通院大進を名かり如くは門前の表町前小辰已屋惣云清といふりの田楽某版の  
店をわけてはつとこの物に清生質強記をせし弱きを助者願ふ快幸のりのありしを嘉年よ  
里津屋中うのま似せしては化踊を分り山王村田のの色の祭礼にも出て踊る或は女のかつらせり  
あり小系女とあり巫女のま似をありてせり或は浅草蒲中の端者のま似せりといふれといふれ  
ありはつと文化のまの以村田祭の時七千俵大あう出のよおをうと踊りといふれも昔  
より中七十金あうと修り 南畝先生文化元甲子秋末傍へ趣りれ時高船の清人程赤城あ

○安永中島山檢校遊里小趣遊女激川と身交し巨万の金銀を費せり

○山王神田祭礼の時花万度せりといふる

○山王神田祭礼の時花万度せりといふる

天明元年辛丑 四月十二日改元 五月圓

正月八日新枝木町和國館の店より出火為芝居その外敷焼屋敷焼小

いり ○二月朔日より浅草妙善寺におて鎌倉名越谷長勝寺祖師匠帳

○二月朔日浅草瑞瑞語元祖常磐若津文字太史死 廣尾  
祥雲と小藤茂 ○二月十五日

より回向院より中巻小金 善化宗  
奉る 一月奇釈迹如来不動尊因縁 又八箇三葉  
あり 喜國

○三月十日十三日と多田中より肉より 信州善光寺回向如来漸常文内

○三月十日十八日と沼田延命より

○三月十八日浅草三社権現祭礼より



町々分出<sup>中絶</sup>係物を出<sup>中絶</sup> ○四月八日より回向院にて山嶽嵯峨二宮院跡<sup>中絶</sup>秋迄

系光大師開帳 ○浅草寺法事<sup>中絶</sup>にて下総國平賀寺<sup>中絶</sup>祖師開帳 ○茅場町

茶師内子<sup>中絶</sup>和久大峯<sup>中絶</sup>天の河<sup>中絶</sup>才天開帳 ○古川茶師<sup>中絶</sup>開帳

○敷<sup>中絶</sup>檜<sup>中絶</sup>宗<sup>中絶</sup>係<sup>中絶</sup>ち<sup>中絶</sup>て<sup>中絶</sup>甲斐國郡内小沢<sup>中絶</sup>見村<sup>中絶</sup>西方<sup>中絶</sup>十一面觀世音開帳

○目白不動<sup>中絶</sup>寺境内<sup>中絶</sup>にて武藏惣社<sup>中絶</sup>住吉<sup>中絶</sup>和<sup>中絶</sup>宮<sup>中絶</sup>三神開帳

○六月五日浅草寺<sup>中絶</sup>六天系<sup>中絶</sup>礼<sup>中絶</sup>神<sup>中絶</sup>樂<sup>中絶</sup>出<sup>中絶</sup>係物出<sup>中絶</sup> ○六月十四日儒師井上<sup>中絶</sup>榮

澤<sup>中絶</sup>平<sup>中絶</sup>名<sup>中絶</sup>逸<sup>中絶</sup>稱<sup>中絶</sup>野<sup>中絶</sup>方<sup>中絶</sup>事<sup>中絶</sup> ○六月十八日四谷<sup>中絶</sup>天王<sup>中絶</sup>稻荷<sup>中絶</sup>系<sup>中絶</sup>礼<sup>中絶</sup>神<sup>中絶</sup>樂<sup>中絶</sup>出<sup>中絶</sup>係物

出<sup>中絶</sup> ○秋<sup>中絶</sup>雲<sup>中絶</sup>末<sup>中絶</sup>洪<sup>中絶</sup>水<sup>中絶</sup>江<sup>中絶</sup>戶<sup>中絶</sup>橋<sup>中絶</sup>換<sup>中絶</sup>次<sup>中絶</sup> ○七月初日より回向院にて奥州外濱<sup>中絶</sup>百津

寺<sup>中絶</sup>岩<sup>中絶</sup>中山<sup>中絶</sup>三社<sup>中絶</sup>本<sup>中絶</sup>地<sup>中絶</sup>跡<sup>中絶</sup>跡<sup>中絶</sup>如<sup>中絶</sup>來<sup>中絶</sup>觀<sup>中絶</sup>世<sup>中絶</sup>音<sup>中絶</sup>并<sup>中絶</sup>茶<sup>中絶</sup>師<sup>中絶</sup>如<sup>中絶</sup>來<sup>中絶</sup>開<sup>中絶</sup>帳 ○同日より浅草寺

泉<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>にて武<sup>中絶</sup>及<sup>中絶</sup>八<sup>中絶</sup>王子<sup>中絶</sup>本<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>より祖<sup>中絶</sup>師<sup>中絶</sup>系<sup>中絶</sup>帳 ○四谷<sup>中絶</sup>南<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>町<sup>中絶</sup>生<sup>中絶</sup>成<sup>中絶</sup>院<sup>中絶</sup>塩<sup>中絶</sup>踏<sup>中絶</sup>觀

世<sup>中絶</sup>音<sup>中絶</sup>開<sup>中絶</sup>帳 ○東<sup>中絶</sup>叡<sup>中絶</sup>山<sup>中絶</sup>護<sup>中絶</sup>國<sup>中絶</sup>院<sup>中絶</sup>常<sup>中絶</sup>念<sup>中絶</sup>佛<sup>中絶</sup>堂<sup>中絶</sup>五<sup>中絶</sup>万<sup>中絶</sup>日<sup>中絶</sup>回<sup>中絶</sup>向 ○下谷<sup>中絶</sup>德<sup>中絶</sup>大<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>にて中

山<sup>中絶</sup>法<sup>中絶</sup>花<sup>中絶</sup>經<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>祖<sup>中絶</sup>師<sup>中絶</sup>開<sup>中絶</sup>帳 ○七月初日より湯島<sup>中絶</sup>社<sup>中絶</sup>地<sup>中絶</sup>にて小野<sup>中絶</sup>社<sup>中絶</sup>内<sup>中絶</sup>安<sup>中絶</sup>並<sup>中絶</sup>天

満<sup>中絶</sup>宮<sup>中絶</sup>開<sup>中絶</sup>帳 ○八月より浅草寺<sup>中絶</sup>荒<sup>中絶</sup>次<sup>中絶</sup>不<sup>中絶</sup>動<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>開<sup>中絶</sup>帳 ○九月晦日子<sup>中絶</sup>刻<sup>中絶</sup>告<sup>中絶</sup>系<sup>中絶</sup>伏

見<sup>中絶</sup>町<sup>中絶</sup>一<sup>中絶</sup>本<sup>中絶</sup>江<sup>中絶</sup>戸<sup>中絶</sup>より出<sup>中絶</sup>火<sup>中絶</sup>一<sup>中絶</sup>町<sup>中絶</sup>の<sup>中絶</sup>除<sup>中絶</sup>燒<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>世<sup>中絶</sup>交<sup>中絶</sup>ハ<sup>中絶</sup>修<sup>中絶</sup>完<sup>中絶</sup>也 ○十月十三日蓮

上<sup>中絶</sup>人<sup>中絶</sup>五<sup>中絶</sup>百年<sup>中絶</sup>法<sup>中絶</sup>花<sup>中絶</sup>宗<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>院<sup>中絶</sup>法<sup>中絶</sup>庭<sup>中絶</sup>を<sup>中絶</sup>設<sup>中絶</sup>く ○十月十四日目<sup>中絶</sup>黒<sup>中絶</sup>長<sup>中絶</sup>泉<sup>中絶</sup>院<sup>中絶</sup>開

基<sup>中絶</sup>礎<sup>中絶</sup>門<sup>中絶</sup>律<sup>中絶</sup>師<sup>中絶</sup>寂<sup>中絶</sup>講<sup>中絶</sup>普<sup>中絶</sup>寂<sup>中絶</sup>号<sup>中絶</sup>乃<sup>中絶</sup>光<sup>中絶</sup> ○十月廿日より十一月廿日迄浅草寺<sup>中絶</sup>觀<sup>中絶</sup>世<sup>中絶</sup>音

開<sup>中絶</sup>帳 ○隅<sup>中絶</sup>田<sup>中絶</sup>川<sup>中絶</sup>兩<sup>中絶</sup>岸<sup>中絶</sup>一<sup>中絶</sup>覽<sup>中絶</sup>二<sup>中絶</sup>卷<sup>中絶</sup>板<sup>中絶</sup>行<sup>中絶</sup>成 軸<sup>中絶</sup>物<sup>中絶</sup>を<sup>中絶</sup>刊<sup>中絶</sup>行<sup>中絶</sup>す<sup>中絶</sup>る<sup>中絶</sup>を<sup>中絶</sup>於<sup>中絶</sup>少<sup>中絶</sup>一<sup>中絶</sup>霍<sup>中絶</sup>岡<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>水<sup>中絶</sup>の<sup>中絶</sup>草

下<sup>中絶</sup>谷<sup>中絶</sup>金<sup>中絶</sup>枝<sup>中絶</sup>小<sup>中絶</sup>位<sup>中絶</sup>一<sup>中絶</sup>長<sup>中絶</sup>壽<sup>中絶</sup>を<sup>中絶</sup>保<sup>中絶</sup>ち<sup>中絶</sup>て ○あ<sup>中絶</sup>ら<sup>中絶</sup>ば<sup>中絶</sup>は<sup>中絶</sup>淺<sup>中絶</sup>草<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>祇<sup>中絶</sup>園<sup>中絶</sup>の<sup>中絶</sup>中<sup>中絶</sup>延<sup>中絶</sup>光<sup>中絶</sup>庵<sup>中絶</sup>にて<sup>中絶</sup>勞<sup>中絶</sup>ま<sup>中絶</sup>せ<sup>中絶</sup>製<sup>中絶</sup>餅<sup>中絶</sup>等<sup>中絶</sup>分<sup>中絶</sup>給<sup>中絶</sup>下<sup>中絶</sup>に

文<sup>中絶</sup>政<sup>中絶</sup>の<sup>中絶</sup>未<sup>中絶</sup>也<sup>中絶</sup>尚<sup>中絶</sup>存<sup>中絶</sup>在<sup>中絶</sup>り<sup>中絶</sup>と<sup>中絶</sup>す<sup>中絶</sup> ○賞<sup>中絶</sup>し<sup>中絶</sup>て<sup>中絶</sup>日<sup>中絶</sup>々<sup>中絶</sup>茶<sup>中絶</sup>集<sup>中絶</sup>一<sup>中絶</sup>さ<sup>中絶</sup>あ<sup>中絶</sup>く<sup>中絶</sup>賃<sup>中絶</sup>食<sup>中絶</sup>舖<sup>中絶</sup>の<sup>中絶</sup>如<sup>中絶</sup>し<sup>中絶</sup>て<sup>中絶</sup>本<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>に<sup>中絶</sup>信<sup>中絶</sup>じ<sup>中絶</sup>れ<sup>中絶</sup>り

天明二年壬寅

三月十日より永代寺にて終る<sup>中絶</sup>八幡<sup>中絶</sup>宮<sup>中絶</sup>本<sup>中絶</sup>地<sup>中絶</sup>堂<sup>中絶</sup>際<sup>中絶</sup>明<sup>中絶</sup>五<sup>中絶</sup>教<sup>中絶</sup>新<sup>中絶</sup>以<sup>中絶</sup>告<sup>中絶</sup>觀<sup>中絶</sup>世<sup>中絶</sup>音

開<sup>中絶</sup>帳 以<sup>中絶</sup>時<sup>中絶</sup>境<sup>中絶</sup>内<sup>中絶</sup>一<sup>中絶</sup>巫<sup>中絶</sup>女<sup>中絶</sup>の<sup>中絶</sup>お<sup>中絶</sup>し<sup>中絶</sup>て<sup>中絶</sup>り<sup>中絶</sup> ○三月七日二井<sup>中絶</sup>親<sup>中絶</sup>和<sup>中絶</sup>平 八<sup>中絶</sup>十<sup>中絶</sup>二<sup>中絶</sup>大<sup>中絶</sup>号<sup>中絶</sup>竜<sup>中絶</sup>湖<sup>中絶</sup>縁<sup>中絶</sup>縁<sup>中絶</sup>席

深<sup>中絶</sup>川<sup>中絶</sup>丁<sup>中絶</sup> ○三月十日より浅草寺<sup>中絶</sup>念<sup>中絶</sup>佛<sup>中絶</sup>堂<sup>中絶</sup>にて<sup>中絶</sup>災<sup>中絶</sup>障<sup>中絶</sup>谷<sup>中絶</sup>波<sup>中絶</sup>華<sup>中絶</sup>嚴<sup>中絶</sup>寺<sup>中絶</sup>十<sup>中絶</sup>一<sup>中絶</sup>面<sup>中絶</sup>觀<sup>中絶</sup>世<sup>中絶</sup>音



開帳 ○同日より回向院あり奥州金花山赤才天開帳 ○芝金杖正傳寺あり中山

智泉院鬼子母神開帳 ○茅場町茶師内より小津清高の神に開帳 ○三月廿二日

金剛工尾崎直政卒 林孫丸妻 ○三月廿九日儒師片山兼山卒 名世播林冬彦

小華 ○四月三日儒師後藤芝山卒 六十才孫孫孫孫 ○五月四日細井九章卒 名知文

一馬江雅乃人廣津の男 ○六月二日戲作若伊登可矣卒 比谷理性也 ○六月天文

登坂半込芝茶店より浅草へ移る 牛込のあり神田佐久郎 町の小まありあり ○七月朔日より回向院

より武州比企郡三保谷村養牛院より親世吉 弘法大師也 開帳 乃權寺本寺

○七月十四日夜九時十音如大地震然人戸外へ出ると男少の地震ハ算(か)に

以高野及大山の辺との外つと屋上より花と落 〇七月十音より下谷正法院内あり

上及敏林光昭也 延和四年利根川より 阿孫院如來開帳 ○十月廿日俳人三橋存

義卒 号有世為淺子 〇十月廿九日俳人谷口樓川卒 卒於中 小華 〇今年小獲必也

天明二年癸卯 山月七切切以西世三所写親善堂建立 伊中動化を慕りて是を營む文政のり公家小

正月廿六日淺草の程方師芙蓉花江戸小卒 卒の登傳去傳と云 〇二月二日俳人

二世沾涼卒 八十五才坊上中 昌泉院小華 〇二月二日大地震 ○二月より吾妻森吾妻權

現開帳 ○二月廿日より龜戸營門院正親世吉開帳

〇二月廿八日俳人臯月平砂卒 三田為林也 〇三月十四日より下谷正法

院福翁并本北十二面親世吉開帳 ○月十五日より淺草旅玄歌も齒吹孫院

如來開帳 ○三月十五日より回向院あり鎌倉永谷貞昌院天満宮法財

坊本地觀世音開帳 ○青山善光寺弥陀如來開帳 ○淺草觀世音開

考上人遺物を物せむ ○三月十八日より六月八日追淺草寺觀世音開

帳 寛延四年より三年目之北中冥佛あり開帳 ○同日より約形堂あり下總

本堂仁王門被損修復あり



東二井と地蔵并開帳 ○三月より浅草寺法とあり後河岩寺実相寺  
祖師開帳 ○三月廿三日南船川大火 ○日廿五日靈巖島火事 ○四月  
八日深川辺大火 ○日十日浅草寺の火 ○四月朔日より湯島田代  
寺十二面親世音立火等開帳 ○日日より浅草寺町折橋橋本地十二面親  
世音開帳 ○同日より浅草日輪寺あり奥州會津西光寺日限地蔵等  
開帳 ○日日より下谷五條天祚天満宮開帳 ○四月八日芝慶宮控現  
境内より下谷必米倉山等妙寺十二面親世音開帳 ○六月十日より  
湯島社内あり小日向若松谷町照寺地蔵寺聖徳寺不動寺開  
帳 ○日善より霖雨晴るの稀 ○六月十六日より大雨降續十七日別て  
大雨より浅草小石川辺出水大川橋柳橋墮る小日向大洗堰石垣崩  
是林田上水切る ○信長浅石山大坑火焼江戸あり七月六日夕七ツ

申時より為水の方鳴動一翌七日程忘一天闇く夜の如く六日の  
夜より冥東筋気候を降る子駭一井木枝積雪の如く八日小  
里快晴と成る

浅石山焼出せし善の以より殆り常小雷一りり別て海く燒中一言六月廿九日の以より  
望月宿の辺よりなる小畑立雲の如く雲二面小波ひ雲の極ありて思より一りり  
七月廿日より毎日雷の如く山鳴り次第小雷く六月夕方より青色の灰降中より翌七  
日の朝大波降る音強く昼より樹目廿分より四十分位迄の終るの如く小石降り之由  
仍より七時より灰降出一時雨開敷の如く人衆も見え分らぬ内にて水を燈りさるる  
用事あれり末後せしつゆさよてれありけり後より二時計りて空際より日見せし  
又陽方のく小雷火の玉飛上り暫くありて小石降り鳴音強くと後子より是夜高るあり  
とそは雷強くなり女中三三三和一落空一向ひて浅草寺打ち雷降ると八日  
朝に時苦敷の如く又より少一時時後水も見え一若菜辺ありて八九寸位積り奇辺二尺はみす  
又是日朝吉井辺あり二坪の水量あり一石あり降るを以て小石降りも多し松井田小  
て三尺計り新井次巻織造板鼻の辺に二三寸計の石障り人家を潰し一うちみ人必りく小  
家を捨て還り遠くの如く命を全せりも有り小田井大釜の辺に糞等を出て人等々々あり  
糞所積焼して退避く七日夕我妻辺の山より大蛇も出たり又九日己の時利根川の上下妻川一  
たり小水あり成りけり暫時泥の如く押し人等沈むる中洲八丁河岸の辺より樹木家  
屋入るの死骸流し来る等一く中外の川に燒石お水熱湯の如く上州一國の民も三日昼  
夜途方より信より上河懸谷辺遠くを運われともは五年のる他物ありけり其の難ありて







如多海寺聖徳太子開帳○二月小川町三修猶存明神開帳○三月十五日  
 より五月五日迄日向院少く相州國中最高寺道了権現開帳○葛西元之  
 村正堂等勢大明神開帳○三月廿日弘法大師九百五十年忌○川崎本弓  
 寺弘法大師開帳○獲志寺護持院弘法大師遠忌身什物開帳  
 ○永代寺之山城宇治平為院縣社本祀如多海觀世音開帳○牛込本福寺  
 あり中山法華院寺本堂祖師日法上人開帳○法名本法寺あり依後難太  
 郡小濱村妙宣寺祖師開帳○龜戸天満宮開帳○四月より子路谷恩子  
 母神開帳仙壽院四月より深川靈雲院あり永泉涌寺新造如來肉付  
 佛舍利開帳○四月十六日茶人清水玄昌下谷竜泉寺○四月十六日丑下刻  
 若原水道尻より出火廊中焼亡飯宅向ふ小日向院あり○四月廿日高  
 芙蓉亭寺子義刻の上より○徳國臥僅時度仍れ人多死也  
大崎町安樂院あり

○五月二日萩原宗固卒八十二才名貞辰布花園と号し法光院の禪士あり鳥丸光榮との如  
 門あり和奇やうの法眼あり○六月廿日古実者伊勢貞史卒七十才号安高  
 西原大寺あり○六月十六日儒師井  
 上金哉卒井手名院の孫文平  
 長壽村あり○八月十六日國景若為田新風卒井七才新島茂  
 徳正寺あり  
 ○九月十五日より十月十日迄千住慈眼寺あり野島津山寺地蔵菩薩開帳  
 ○九月十八日後藤氏十三代延家卒六十才○十一月より五年の曾仙齋あり南鏡を繕  
 らう○十一月桐長桐芝居橋と改し時馬橋と云程言やあり乙冠坊衣入の衣敷あり  
 此殿一柱を以て  
 ○十一月東本願寺本堂再建棟上○十二月六日夜太白星歳  
星のを祀り○十二月十一日五車星のを祀り○十二月廿六日夜戌下刻八代酒川  
 家より出火為小風烈しく大石小路杉柵救奇座橋弓町御座下辺八官町  
 の辺尾端町より本松所芝居仙齋廣西藩邸の辺北の系橋辺迄鉄炮例築  
 地海寺為本郡南小田系所辺迄新焼翌廿七日申刻深助町辺に火燒る







正月元日丙午子午一刻より未一刻迄日蝕皆既闇夜の如し

○正月廿二日昼九時湯島天神裏門前牡丹長家より出火西小風烈しく三組町妻良社神田明神門前并風閣より飯籠町辺内外神田より通町筋本町通日中橋迄東小田原町堀江町小網町堺町葺屋町並座芝居並近辺大焼る所小焼る所有喰町淡所津川一飛火熊井町相川町大島町辺八幡宮一、有居仲丁辺焼亡翌廿三日曉迄る聖堂神田明神の本社計り焼る

○月廿三日風烈しく午刻西久保大養生所より出火赤羽飯倉町を焼失ち院の光明寺の光院其外焼亡次より飛火して田町海岸迄焼る申中刻迄幅三丁長十五町といふ○同廿四日夜神奈川宿三百軒の餘焼る○同廿七日午刻本所四ッ目より出火釜屋迄焼る○同夜平川河門外出火あり

○二月二日荷田喜満の女蒼生卒年才四才小女一和女也○二月六日午刻正

小石川蓮華寺前指谷町二丁目より出火乾風強く丸山辺江町本元町

江茶水春日町新焼敷立所以焼る○回向院の上総玉子回村総念寺齒次

鉢陀如來開帳○谷中延命院七面明神の焼る○二月廿三日相筋根山崎動

く女日日の以地震甚しく一日百度計震ひくと云○三月より薩國を觀せり

開帳○三月十五日夜中雪降り梅の花は積る○三月廿二日淨瑠璃諸元祖

赤松實若狭掃死七年才林店を掃刺殺して雀を殺といふ○早春より四月の半迄

雨あつく日烈風ありと諸人火災の怖るを安きとるあり

○五月の以より雨整く隔日の振ありしが七月十二日より別々大雨降續け山水何れも洪水と成り十三日十四日より半辺小日向物あり石切橋辺武家方登陸途人々水勢を急ぐ橋の流る由本村田上水掛植危く大勢の人を以て防がむ後水植の上より大勢水ありしが十七日十八日以より少く減りて目白山崩上より水植つる水乃一月の餘迄思ふ程遠橋危く和泉橋の仮橋流るより十五日より大川を位出あり小橋系の水五尺も濁りて一、二位大橋も危く也掃筋宿軒並水あり本所津川の家屋を流り本井更此辺水一丈三尺と云大川橋も危く

武江年表卷之六

七三



十六日性来海の十七日屋敷大橋中の石垣間流失衣代橋古石流流失隅田堤之石垣等不  
押切男女江戸(向)けお園橋を流り 迹弟り流景辺に船を沈没せり 吉原の橋へ水より雜  
目谷大水より怪象人多し 日谷牛込辺に石垣崩れおる 日水より一石を流せり 日除  
石垣土子の崩れおる 船の石垣崩れ 官所より助船せり 危殆を救へられ  
十八日あまふ橋小橋(西)救小橋を建られ 後民を救せり 十九日より晴天となり 廿日より  
水少し 廿日午後お雨川(船)流しおる 園八五を立込ぬ 洪水のこまふ 草紙に記  
し 夏より冬おり 諸國飢饉 諸人困窮す 〇七月中旬江戸中橋(油)賣切  
〇八月月院門あちち市といふ所の菓餅の根を以割麦の如く割製し  
食食とし又葛の如く割製し食食し 糊も用方工をを 官所を  
ゆく九月の末より左の諸及近も賣弘む 〇青山持太系(鮫)橋より日  
涯に権太僧於何某とあり古き碑あり畧しその石を持太系といふ曆  
應二年乙卯八月九日とありとそ此碑を安徳大権現と崇む今年何とて  
り系諸人多りりとぞ

天明七年丁未

正月十六日御人木丹卒 此十九才 廣澤中 系照院小葬儀 〇正月十七日昼八時青山より

出右西南大風権左系鮫橋十日谷辺連敷焼 〇二月南無人親近(蘇)雲太

清門十三回忌の時身生(密)勝右弟の深川采代も八幡宮の後小雲右勝

つり舟の火お等しき碑を立る 寺七更寺 天恩孔平文を撰記 〇二月八日医師山田園南卒

牛余才名正珍 林宗俊 詩作名あり 谷中 南名も牛葬儀 〇二月廿九日御人珠身居士卒 名師老号石花 主人並書松も

〇五月番籠高岩谷溪美寺親吉堂(親)政務車太徳退治の圖を

画し額を納む 横二間 壁九尺もろろ 一以額小付く 色々の評判あり 甲胃は外故実を共ひし 由り人おれと古書を借せしおし 人物の活動普通の画匠のなるおふ

〇五月あつり米穀(米)小之 〇市中の春米盛も售つる

あつりて門戸を閉じ廿日より廿九日迄雜人米肆酒店を閉米穀を移し

たる家々を打毀(事)夥し 此時一人の太若虎ありてと由り家能器を打こみ流し佛記 危殆のことありとも 災童までありとぞ



官<sup>タテ</sup>府より嚴しく制しおし町々あても竹柵を據一教<sup>けい</sup>園嚴堂ありて之  
 暫時<sup>しばらく</sup>に罷たり ○五月賊民<sup>ぞく</sup>に正教とて金子を擄り六月米大豆中並を以て  
 費しめらる ○八月十二日曆学者小沢榮江卒 名政教孫多門駒也 浩州と小華以 ○八月廿日  
 書家伊藤長棟卒 字万年号匡山 淡草亭と小華 ○八月廿二日谷中感<sup>かん</sup>烈<sup>りつ</sup>地月小於<sup>こ</sup>  
 赤叡山<sup>せき</sup>時の鐘を鑄改む日月廿八日善<sup>ぜん</sup>念<sup>ねん</sup>時始<sup>はじめ</sup>と撞く ○九月七日俳諧師  
 雲中庵<sup>うんちゆう</sup>藤<sup>ふじ</sup>太<sup>たい</sup>卒 七十六大島氏名陽喬室摩居士 ともは津川要津と小華以 ○九月十二日井の水<sup>みづ</sup>委<sup>あ</sup>りとい  
 不<sup>ふ</sup>妖<sup>や</sup>言<sup>ごん</sup>ひらきる ○十月九日曉<sup>あき</sup>邦<sup>はう</sup>刻<sup>こく</sup>吉<sup>きち</sup>系<sup>けい</sup>南<sup>なん</sup>町より出火して廊中<sup>らうちゆう</sup>焼く  
 於<sup>お</sup>燒<sup>や</sup>亡<sup>な</sup>花<sup>はな</sup>川<sup>がわ</sup>戸<sup>こ</sup>追<sup>お</sup>取<sup>と</sup>燒<sup>や</sup>以<sup>い</sup> 飯島大橋例津川新地八幡寺中御国永町と稱あり ともはりの名居の屋がみりてのひよねは足る飯宅男少  
 ○林田<sup>はやし</sup>の林<sup>はやし</sup>系<sup>けい</sup>礼<sup>らい</sup>十月あ延<sup>のび</sup>る再<sup>また</sup>延<sup>のび</sup>り十二月三日小<sup>こ</sup>渡<sup>わた</sup>る登<sup>のぼ</sup>りて  
 天明八年戊申  
 正月元日大<sup>おほ</sup>聖<sup>せい</sup>路<sup>ろ</sup> ○正月廣<sup>ひろ</sup>東<sup>とう</sup>人<sup>ひと</sup>参<sup>まゐ</sup>賣<sup>う</sup>買<sup>かひ</sup>正<sup>せい</sup>信<sup>しん</sup>止<sup>と</sup>ありしをゆるしあり

○四月朔日より深川<sup>ふかがわ</sup>浄<sup>じやう</sup>心<sup>しん</sup>ありて身<sup>み</sup>延<sup>のび</sup>山<sup>さん</sup>祖<sup>そ</sup>師<sup>し</sup>閑<sup>かん</sup>性<sup>じやう</sup> ○月十五日より後<sup>ご</sup>芝<sup>しば</sup>  
 西<sup>にし</sup>の<sup>の</sup>後<sup>ご</sup>光<sup>こう</sup> ○五月八日儒<sup>にゆう</sup>師<sup>し</sup>大<sup>だい</sup>江<sup>かう</sup>維<sup>い</sup>翰<sup>くわん</sup>卒 東師の夫の妻衝が子也 芝天極寺と華以 ○六月十二日英<sup>えい</sup>一<sup>いつ</sup>蜂<sup>ほう</sup>卒  
 西<sup>にし</sup>の<sup>の</sup>後<sup>ご</sup>光<sup>こう</sup> ○七月十六日書<sup>しよ</sup>家<sup>か</sup>植<sup>ちつ</sup>楸<sup>きゆう</sup>季<sup>き</sup>梁<sup>りやう</sup>卒 名棟号然居士 淡草流と小華以 ○八月廿一日書  
 家<sup>か</sup>関<sup>かん</sup>敬<sup>かう</sup>明<sup>めい</sup>卒 号东山 称秋花 小日向林名と小華以 ○十二月寺院<sup>いん</sup>に命<sup>めい</sup>しめられ清<sup>せい</sup>間<sup>かん</sup>山<sup>さん</sup>燒<sup>や</sup>奥<sup>おく</sup>州<sup>しゅう</sup>  
 飢<sup>う</sup>饉<sup>げん</sup>度<sup>ど</sup>深<sup>ふか</sup>淵<sup>えん</sup>東<sup>とう</sup>出<sup>で</sup>水<sup>すい</sup>系<sup>けい</sup>於<sup>お</sup>大<sup>だい</sup>火<sup>か</sup>燒<sup>や</sup>死<sup>し</sup>弱<sup>じやく</sup>死<sup>し</sup>水<sup>すい</sup>以<sup>い</sup>禍<sup>わざはひ</sup>小<sup>こ</sup>罹<sup>ら</sup>りしもの為<sup>ため</sup>不<sup>ふ</sup>施<sup>せ</sup>餘<sup>ご</sup>鬼<sup>き</sup>  
 と修<sup>しゆ</sup>せしめらる 江戸の本所回向院小松川仲臺院あり系於大火といつて今年正月晦日洛東 國東より出火して洛中洛外大周と正をとりこの大火の身を委曲ふ 甚しく花紅葉於影と影せる板本の巻あり 又大典禪師平安符彼の記をりりする  
 此年間記事  
 天明の頃名家△儒家金<sup>きん</sup>我<sup>が</sup>旭<sup>きやく</sup>山<sup>さん</sup> 芝<sup>しば</sup>山<sup>さん</sup>北<sup>きた</sup>海<sup>かい</sup>雀<sup>せき</sup>鳴<sup>めい</sup>瓶<sup>びん</sup>山<sup>さん</sup>△詩<sup>し</sup>人<sup>にん</sup>西<sup>せい</sup>野<sup>や</sup>僧<sup>そう</sup>  
 △書<sup>しよ</sup>家<sup>か</sup>其<sup>き</sup>寧<sup>ねい</sup>東<sup>とう</sup>江<sup>かう</sup>親<sup>しん</sup>和<sup>わ</sup>改<sup>かい</sup>嶺<sup>りやう</sup>韓<sup>かん</sup>天<sup>てん</sup>壽<sup>じゆう</sup>牛<sup>ぎゆう</sup>山<sup>さん</sup>△和<sup>わ</sup>歌<sup>か</sup> 千<sup>ち</sup>蔭<sup>いん</sup>  
 六<sup>ろく</sup>如<sup>にょ</sup> 名慈周











